

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

120年を超える伝統を有する本校は、先進的な中高一貫教育を通して、地域や世界と協働しながら深い教養と探究心・豊かな人間性を涵養し、「地球的視野を持って未知の課題に挑み、地域や社会に貢献するグローバル・リーダー」を育成する。

<中高一貫教育を通して育みたい力>

- (1) グローバルな視野とコミュニケーション力
- (2) 論理的思考力と課題発見・解決能力
- (3) 社会貢献意識と地域愛

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

- (1) 新学習指導要領の確実な実施のため、各教科・科目においては、確かな学力を育成すべく観点別評価を踏まえた授業・評価サイクルづくりを念頭に授業改善に取り組み、知識・技能はもとより、思考力・判断力・表現力及び、生徒の主体性・協働性を育む。

ア 「授業改革推進委員会」を核として、観点別評価を踏まえた授業改善に組織的かつ恒常的に取り組む。

イ 各教科において中高6年一貫の「学び」を可視化し、当該教科に留まらず教科横断的なカリキュラムマネジメントを推進する。

ウ 「オンライン学習研究委員会」を核として「1人1台端末」の効果的活用を学校全体で進め、生徒の学びを支援、深化させる。

※（生徒対象）学校教育自己診断における授業満足度（R02：76%、R03：84%、R04：85%）を向上させ、令和7年度に90%をめざす。

2 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取組み

- (1) スーパーサイエンスハイスクールとして、南河内地域科学教育のセンター的役割を果たす。「探究」と「貢献」をキーワードに中高一貫した教育活動を組み立て、国際社会に貢献しようとする高い志をもつ人材を育成し、進学実績の向上を図る。

ア 科目「グローバル探究」では、「地域と連携した探究貢献活動」を展開するとともに、大学や研究機関との連携による先進的な理数系教育を実践し、社会への貢献意識及び自己実現意識を育み、世界とつながり活躍できる科学的な人材を育成する。

イ・中高一貫した進路指導実現のため、進路指導部及び学力向上戦略委員会が中心となって、キャリア教育も含め様々な取組みの具現化を図る。

・国公立大学進学者の合格者数（現役合格 R02：54名、R03：49名、R04：85名）について、令和7年度には現役で100名以上をめざす。同時に自己実現の志を高く維持させ、難関大学（京都、大阪、神戸等）への受験者増を図り、令和7年度には現役合格者数30名以上をめざす。

※（生徒対象）学校教育自己診断における進路指導の満足度（R02：86%、R03：91%、R04：91%）令和7年度も90%以上を維持する。

また、（保護者対象）学校教育自己診断における進路指導の満足度（R02：74%、R03：74%、R04：79%）を向上させ、令和7年度に85%をめざす。

3 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をはぐくむ取組み

- (1) 充実した学校生活こそが「生きる力」の源泉になることから、中高一貫教育の観点から学校行事・部活動等の一層の充実を図る。

ア <中高一貫教育を通して育みたい力>の育成に向けて、学校行事を充実させるとともに部活動を奨励する。また、中高一貫した部活動指導も図る。

イ 国際社会の一員として必要な人権意識・マナーを醸成し、互いに高め合う、あたたかな仲間づくりを進める。

ウ 通級指導教室へ生徒が参加しやすい環境を整える。また、生徒・保護者への周知に努める。

※（生徒対象）学校教育自己診断の学校行事満足度（R02：94%、R03：95%、R04：94%）令和7年度も90%以上を維持する。

- (2) 異文化交流や共同研究による国際教育を中高一貫して推進する。

ア 国際交流（アメリカ、台湾、オーストラリア、タイ、ベトナム等）を継続し、充実を図る。

イ・台湾の姉妹校やアメリカの交流校との関係を継続するとともに、海外修学旅行や海外研修等を通じて新規姉妹校の開拓を図る。

・グローバル人材の育成に向け、中高一貫教育を踏まえた段階的海外研修を計画、実施する。

※（生徒対象）学校教育自己診断結果で国際交流等についての評価（R02：86%、R03：86%、R04：85%）令和7年度も85%以上を維持する。

4 中高一貫校としての「スクール・ミッション」等の明確化と地域・保護者との連携

- (1) 中高一貫校として「スクール・ミッション」「スクール・ポリシー」を明確にし、6年一貫した教育活動の充実を図る。

ア 中高一貫の観点で「スクール・ミッション」「スクール・ポリシー」を明確にし、それぞれの校種の校務分掌を有機的に関連付けて協働させ、学校全体で共通認識を図る。

イ 全国の中高一貫校やSSH高等の教育先進校を視察し、各校の取組みに学び、中高6年間の教育内容を常に検討し改善に努める。

ウ 中高一貫校として、またSSH指定校として相応しい学校Webページとなるよう随時改修しながら、質・量ともに充実した情報発信に努める。

※（保護者対象）学校教育自己診断における情報発信の満足度（R02：93%、R03：93%、R04：93%）令和7年度も90%以上を維持向上させる。

- (2) 地域・保護者と連携し、魅力ある学校づくりをすすめる。

ア コミュニティ・スクールとして地域と連携のもと魅力ある学校づくりを進めるとともに地域貢献を推進する。

イ 教育環境を整備し、安全・安心な学校づくりに努める。

※学校教育自己診断における学校満足度（生徒対象 R02：93%、R03：94%、R04：94% / 保護者対象 R02：90%、R03：93%、R04：92%）について令和7年度も90%以上を維持する。

5 働き方改革の推進

- (1) 業務の効率化を図り、職員の心身の健康を維持・増進する。

ア 「大阪府部活動の在り方に関する方針」に則った部活動指導を行い、また全校一斉定時退庁日の徹底等により在校時間を定められた上限の範囲内にする。

イ 全般的に校務や業務分担を見直し、民間や外部人材活用等アウトソーシングの観点も取り入れ、業務の軽減・効率化を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>生徒の全質問項目に対する肯定的評価の割合は89.3となり、昨年度の88.3を超えて過去最高となった。学校の友人関係や教職員との関係に満足している生徒の割合はそれぞれ93.6、95.5と共に過去最高水準であり、また「富田林高校へ進学してよかった」と肯定的に捉える生徒も92.4と引き続き高い割合となるなど、コロナ禍における活動制限も次第に緩和される中で、生徒が学校生活を楽しく過ごしている様子が窺える。</p> <p>授業についての評価は、「わかりやすいか」「内容を深く考えさせる授</p>	<p>第1回（令和5年6月21日（水））</p> <p>○令和5年度学校経営計画の改訂</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学実績の向上とともに、今後もそれぞれの生徒に適した多様な進路指導を行ってほしい。 <p>○フリースクール（トゥルーカラーズ）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちを支援するためのさまざまな制度のひとつとして、地域協働での取り組みを発展させていきたい。

<p>業が多いか」という2つの観点においてそれぞれ90.2、87.7と過去最高となった。また、『授業は興味深く、力がつく』と子どもは言っている」という保護者への質問項目も今年度は73.9となり、この質問項目が新たに加わった2014年度の58.6という数値からも大幅に上昇した。</p> <p>昨年度から新たな質問項目として加わった「1人1台端末の活用」についても、昨年度数値の81.2から86.8と上昇している。朝学習やアンケート、小テストでの活用が多い。オンライン学習研究委員会を中心にさらなる活用方法を考え、周知していく。</p> <p>進路指導に関する質問項目について、「進路達成に向けた学習支援」及び「進路情報の充実度」という2観点における生徒の肯定的評価はそれぞれ過去最高の91.2、最高水準の93.7となり、本校の進路指導について信頼が得られている。</p> <p>授業参観や保護者説明会の充実度について保護者に聞いたところ、肯定的評価はそれぞれ90.2、92.9とコロナ前の最高水準まで回復傾向にある。「さくら連絡網」やブログでの情報発信などについての肯定的評価も95.0と高い数値となり、生徒の日頃の様子や様々な情報を提供する機会を今後も増やしていく。</p> <p>また、2020年度以降活動が制限されていた学校行事や部活動についても、感染対策をしながらもコロナ前の規模を実現しようと努めた結果、学校行事に対する保護者の肯定的評価は95.5と、過去最高を記録した。国際交流についての評価も生徒で91.7、保護者で88.8とコロナ前の水準に戻りつつある。本校のグローバル教育に期待する生徒・保護者は多く、さらに取組みを進めていきたい。</p>	<p>○校則の見直しについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校の制服も中学校に合わせ、さまざまな生徒が着用しやすいブレザーにすることを議論している。 ・子どもたちが主体的に校則を考えるのがよいという社会的な流れがある。 ・校則で細かく禁止の規定を作るのではなく、生徒にとって何が大切なのかということを考えて教えるのがよい。 ・何を禁止するかについては、価値観をすり合わせるための議論が必要。 ・校則という一定のルールがあった方が子どもに指導しやすいという保護者からの要望もある。 <p>第2回（令和5年11月30日（木））</p> <p>○R6年度コースに応じた教育課程の運用について（GEコースの人数増設について）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒は、環境に影響されやすい。合格実績を上げていく上で、理解できる。 ・実情に即した指導（授業、考査等）を行っていくのはよいことである。 ・GEコース、標準コースに一度入ったら変更は難しいのか。あとから学力が伸びる生徒もいるので、柔軟に対応してほしい。 <p>○オンラインによる学びの保障について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・別室、ツールカラーズ内でのオンライン授業も進めていくのはよいこと。 ・必ずしも学校に来ることが必要な時代ではない。学校に行かなくても世間で活躍している人はいっぱいいる。個性を尊重する時代になっていくのではないか。そういう時代において学校に来る意味について考えていかなければならない。 <p>第3回（令和6年2月21日（火））</p> <p>○今年度の学校関係者評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中高とも評価が非常に高く、他校ではなかなか見られない。 ・「探究」は生徒が自分を見つめ直す良い取組みである。 ・先生方の指導が国公立大学進学に傾いている感じがある。 ・目標として「〇〇〇大学〇〇人以上」は必要だが、大学が求めているのは目的意識を持った学生である。 ・部活動は、好きなことを見つけ、頑張る力を身につけるためのキャリア教育である。 ・部活動は大事な社会教育の一環だが、先生方が教科教育に専念できるよう、教員の増員を望む。 ・高校教員が中学生を教え、中学教員が高校生を教えるのは、負担ではあるがメリットは大きいだろう。
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R4年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) ア 「授業改革推進委員会」を核として、観点別評価を踏まえた授業改善に組織的かつ恒常的に取り組む。</p> <p>イ 各教科において中高6年一貫の「学び」を可視化し、当該教科に留まらず教科横断的なカリキュラムマネジメントを推進する。</p> <p>ウ 「オンライン学習研究委員会」を核として「1人1台端末」の効果的活用を進め、その情報共有を図る校内体制を構築し、生徒の学びを支援、深化させる。</p>	<p>(1) ア・45分×7限授業（高校全学年33単位）により学校生活をデザインするとともに、新学習指導要領の確実な実施を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教員が「思考を促す授業」を心掛け、「主体的・対話的で深い学び」の授業デザインをもてるようにする。 ・生徒による「授業アンケート」を7月、12月に実施し、全教員による授業改善シートを作成する。 <p>イ・各教科、科目の各単元等が、育む力とどのように関連付けられているか見直すことにより、カリキュラムマネジメントを進める。また、探究等他教科・科目との教科横断的な観点で内容の配置や精選について検討する。</p> <p>ウ・オンライン学習研究委員会を中心に、授業における端末の効果的な具体的実践について情報共有を図る。</p>	<p>(1) ア・(生徒対象) 学校教育自己診断における授業満足度 80%以上を維持向上させる。[85%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(生徒対象) 学校教育自己診断「深く考えさせる授業が多い」85%以上を維持向上させる。[88%] ・2回の「授業アンケート」を実施し、全教員による授業改善シートが作成されたか。[100%] <p>イ・(教員対象) 学校教育自己診断「授業方法や生徒の状況について話し合う機会が多い」90%以上を維持する。[81%]</p> <p>ウ・(生徒対象) 学校教育自己診断「学校は1人1台端末を効果的に活用している」85%以上をめざす。[81%]</p>	<p>(1) ア・生徒向け学校教育自己診断結果における授業満足度への肯定率は90%と過去最高を更新した。授業力向上の取組みが結果に結び付いた。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け学校教育自己診断「深く考えさせる授業が多い」への肯定率は88%と過去最高を維持。(○) ・授業改善シートの提出率は100%であった。(○) <p>イ・教員向け学校教育自己診断「授業方法や生徒の状況について話し合う機会が多い」への肯定率は81%(△)</p> <p>ウ・生徒向け学校教育自己診断「学校は1人1台端末を効果的に活用している」への肯定率は87%と過去最高。(◎)</p>

府立富田林高等学校

2 高い志をばぐくみ、進路実現をめざす取組み	<p>(1)</p> <p>ア 科目「グローバル探究」では、「地域と連携した探究貢献活動」を展開するとともに、大学や研究機関との連携を深め、国際社会で活躍できる力、社会への貢献意識及び、自己実現意識を育む。</p> <p>イ・中高一貫した進路指導実現のため、進路指導部及び学力向上戦略委員会が中心となって、キャリア教育を含め様々な取組みの具現化を図る。</p> <p>・国公立大学進学者の現役合格者数85名と、難関大学（京都、大阪、神戸等）への合格者数20名の維持向上を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・本校のSSH（実践型）の目標（課題解決に向けた科学的探究力及びその探究力の基礎となる思考力・判断力・表現力を育成するプログラムの開発）を具現化するプログラムを実行し、その成果を分析する。</p> <p>・SSHとして、「グローバル探究」において、地域（行政、大学、研究機関、企業、NPO等）との連携や海外との交流を基礎に、ゼミ形式で探究活動を進め、学年末には中学とともに学年での発表や地域フォーラムを開催する。南河内地域の科学教育のセンター的役割を果たす。</p> <p>イ・本校独自の中高一貫した「学習見える化システム」を活用し、全生徒に将来の目標設定を促す。</p> <p>・生徒・保護者への進学説明会を適宜実施する。特に、拡大しつつある「学校推薦型選抜」「総合型選抜」についての情報提供を充実させる。</p> <p>・キャリア教育をはじめとする各種説明会の実施や、「進路だより」の発行等を通じて、進路についての情報提供を充実させる。</p> <p>・生徒のニーズを捉えた進学講習を充実させる。</p> <p>・外部模擬試験の結果等の振り返りを、データに基づき効果的に実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・(生徒対象)学校教育自己診断『『探究Ⅰ・Ⅱ』等の学習活動によって、深く考える力等が身につく』80%以上を維持向上させる。[83%]</p> <p>・(教員対象)学校教育自己診断「生徒は探究活動によって、深く考える力等が身についた」90%以上をめざす。[87%]</p> <p>・(教員対象)学校教育自己診断「SSHの取組みは進路実現に役立つ」90%以上を維持。[96%]</p> <p>・地域（行政、大学、研究機関、企業、NPO等）を巻き込んだ地域フォーラムを20団体以上の参加を得て開催できたか。[20団体]</p> <p>イ・生徒の「見える化システム」の利用率100%を維持する。[100%]</p> <p>・学校教育自己診断における進路指導の満足度について、生徒対象は90%以上を維持向上させ[91%]、保護者対象は80%以上をめざす。[79%]</p> <p>・(生徒対象)学校教育自己診断「講習等で進路達成に必要な学力が身につく」85%以上を維持向上させる。[88%]</p> <p>・模擬試験結果をデータに基づき振り返る取組みを2回以上実施する。[2回]</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断『『探究』などの学習活動によって、深く考える力等が身につく』への肯定率は83%であった。探究活動により身につく力は将来必ず役に立つ。今後も一層充実させていきたい。(○)</p> <p>・教員向け学校教育自己診断「生徒は探究活動によって、深く考える力等が身についた」への肯定率は92%と昨年度より5%上昇。科学教育の取組みが教員にも浸透してきた。(◎)</p> <p>・教員向け学校教育自己診断「SSHの取組みは進路実現に役立つ」への肯定率は95%と昨年度並みの水準を維持。(○)</p> <p>・地域フォーラムへの団体参加は20団体。(○)</p> <p>イ・生徒の「見える化システム」の利用率は100%を維持。(○)</p> <p>・学校教育自己診断における進路指導の満足度への肯定率の生徒向け94%(○)、保護者向け80%。(○)蓄積されたデータを用い、適切な進路指導を組織的に行っている成果である。</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断「講習等で進路達成に必要な学力が身につく」への肯定率91%。(○)本校教員による多様なニーズに応える講習のほか、外部講師によるハイレベル講習を実施した。</p> <p>・2回実施した。(○)</p>
---------------------------	--	---	---	--

府立富田林高等学校

<p>3 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をはぐくむ取組み</p>	<p>(1) ア <中高一貫教育を通して育みたい力>の育成に向けて、学校行事を充実させるとともに部活動を奨励する。また、中高一貫した部活動指導も図る。 イ 国際社会の一員として必要な人権意識・マナーを醸成し、互いに高め合う、あたたかな仲間づくりを進める。</p>	<p>(1) ア・体育祭や文化祭等をはじめ、学校行事全般において、グローバル・リーダーの資質を涵養すべく、生徒の自主性を引き出す行事運営を行う。 ・中高合同の部活動指導を、できる範囲で取り組む。 イ・これまで実施してきた研修内容を踏まえ、新たな研修計画を立案する。 ・挨拶運動、遅刻指導に取り組み、生活マナーを向上させる。 ・中高一貫した「いじめ基本方針」に基づき、いじめを許さない仲間づくりを計画的に実施する。</p>	<p>(1) ア・(生徒対象) 学校教育自己診断結果における行事満足度 90%以上を維持する。[94%] ・部活動加入率 90%以上を維持する。[90%] イ・時代のニーズに合致した人権研修を生徒5回、教職員2回程度実施する。[生徒5回教職員2回] ・(生徒対象) 学校教育自己診断結果における生活指導に対する理解 85%以上をめざす。[84%] ・(生徒対象) 学校教育自己診断結果におけるいじめのない学校づくりに対する満足度 90%以上を維持向上させる。[94%]</p>	<p>(1) ア・生徒向け学校教育自己診断結果における行事満足度への肯定率は 95% (○) 体育祭は外部の体育館で実施した。 ・部活動の加入率 92%。(○) イ・生徒向け人権研修 1年は2回、2年は3回、3年は2回実施した。教職員向け人権研修は2回実施した(○) ・生徒向け学校教育自己診断結果における生活指導への肯定率は 84% (○) と目標にわずかに達しなかったものの最高水準を維持。校則についても時代に即したのものにするため検討中。 ・生徒向け学校教育自己診断結果におけるいじめのない学校づくりに対する満足度への肯定率は 92% (○) 安全安心な学校生活のために 100%をめざす。</p>
	<p>(2) ア 国際交流(アメリカ、台湾、オーストラリア、タイ、ベトナム等)を継続し、充実を図る。 イ・台湾の姉妹校やアメリカの交流校との関係を継続するとともに、海外修学旅行や海外研修等を通じて新規姉妹校の開拓を図る。 ・グローバル人材の育成に向け、中高一貫教育を踏まえた段階的海外研修を計画、実施する。</p>	<p>(2) ア 新型コロナの状況が見通せない中、海外での交流の可能性を探りつつ、ICTを活用しながら様々な国の生徒との交流を図る。 イ・コロナ禍終焉を見越して、中高6年間を見通した海外研修を複数計画し、それぞれの研修のねらいを明確にしておく。また、海外研修が実施できないことを前提に、国内における代替企画を立案、実施する。 ・スマートスクール「モデル校」指定を受け、海外(アメリカ、フィリピン、ネパール、フランス等)の高校生等とテレビ会議システムを活用し、共同研究等に取り組む。</p>	<p>(2) ア 今後を見据え、海外の2校以上の学校と交流を実現させる。[3校] イ・ねらいを明確にした海外研修プランを検討するとともに、国内での代替企画を立案し、参加者20名以上で実施する。[15名] ・(生徒対象) 学校教育自己診断「学校は海外修学旅行、海外研修、国際交流等を通してグローバルな視野とコミュニケーション力の育成に努めている」90%以上をめざす。[85%] ・海外の学校とのテレビ会議システムを活用した共同研究等を、生徒40名以上が関与する形で実施する。[40名]</p>	<p>(2) ア・海外との交流実施3校(○) アメリカ、台湾、マレーシア イ・久々に台湾とマレーシアでの海外研修を実施した。参加者は合計80名。今後も継続したい。(◎) ・生徒向け学校教育自己診断「学校は海外修学旅行、海外研修、国際交流等を通してグローバルな視野とコミュニケーション力の育成に努めている」への肯定率は91%(○)。海外研修や交流を実施でき、生徒の満足度も上がった。今後はさらにグローバルの取組みを拡大する。 ・アメリカ、台湾の生徒とテレビ会議を実施。参加者は延べ20名程度。しかし、アメリカの生徒とは対面で文化紹介を行い、あわせて40名以上の生徒が関与した。(○)</p>

府立富田林高等学校

<p>4 中高一貫校としての「スクール・ミッション」等の明確化と地域・保護者との連携</p>	<p>(1) ア 中高一貫の観点で「スクール・ミッション」「スクール・ポリシー」を明確にし、それぞれの校種の校務分掌を有機的に関連付けて協働させ、学校全体で共通認識を図る。 イ 全国の中高一貫校やSSH 高等の教育先進校を視察し、各校の取組みに学び、中高6年間の教育内容を常に検討し改善に努める。 ウ 中高一貫校として、またSSH指定校として相応しい学校Webページとなるよう随時改修しながら、質・量ともに充実した情報発信に努める。 (2) ア コミュニティ・スクールとして地域と連携のもと魅力ある学校づくりを推進するとともに地域貢献を推進する。 イ 教育環境を整備し、安全・安心な学校づくりに努める。</p>	<p>(1) ア・中学、高校それぞれの対応する分掌を協働的に機能させる。 ・策定した「スクール・ミッション」を受け、全校的に「スクール・ポリシー」の策定に取り組み、共通認識を図る。 イ 全国の中高や SSH 校を視察してその取組みを学び、中高一貫教育を推進させるためのカリキュラムや組織体制を充実させる。 ウ 2年前に全面改訂した学校 Web ページを随時改修し、各組織においては定期的な情報更新に努める。 (2) ア・学校運営協議会を通して、学校運営や学校の課題に対して、保護者や地域の住民の方々が学校運営に参画できるよう努める。 ・「めざす学校像」の共有化を図るとともに、コミュニティ・スクールについての情報収集を継続する。 ・地域（行政、大学、研究機関、企業、NPO等）との連携を踏まえた「グローバル探究Ⅰ」の成果発表会である地域フォーラムを開催する。 イ 生徒、教職員が快適に過ごせる教育環境を整備する。教育相談委員会の中高連携を強化し、全教職員での共有化を図る。</p>	<p>(1) ア・（教員対象）学校教育自己診断における分掌等の機能や中高の協働性についての3項目の評価平均50%以上をめざす。[47%] イ 中高一貫校やSSH校を視察し、先進校情報を収集する。 [3校視察] ウ （保護者向け）学校教育自己診断における情報発信の満足度90%以上を維持する。[93%] (2) ア・学校教育自己診断における学校満足度について、生徒対象[94%]、保護者対象[92%]とともに90%以上を維持する。 ・地域フォーラムやオープンスクール、地域公開授業等、地域や保護者に対して学校を開く機会を5回以上作る。[8回] ・地域（行政、大学、研究機関、企業、NPO等）との連携を踏まえた「グローバル探究Ⅰ」の成果発表会である地域フォーラムを、前年度規模以上で開催できたか。[20団体参加] イ（生徒対象）学校教育自己診断「困っていることや悩みを相談できる先生がいる」80%以上を維持。[83%]</p>	<p>(1) ア・教員向け学校教育自己診断における分掌等の機能や中高の協働性についての3項目の評価平均50%以上をめざすについて、肯定率は42%（△）特に中学との情報共有が課題。 イ・熊本県立宇土中学校高等学校、岡山県立岡山操山中学校高等学校の2校を視察。福島県立福島高等学校を視察。（○） ウ・保護者向け学校教育自己診断における情報発信の満足度への肯定率は95%と向上した。 （◎）さくら連絡網やHPでの情報発信により評価いただいた。 (2) ア・学校教育自己診断における学校満足度について、生徒向け92%、保護者向け93%（○） ・地域や保護者に対して学校を開く機会は8回。コロナに対する制限緩和により、回数を増やすことができた。（○） ・地域フォーラムに20団体参加（○） イ・生徒向け学校教育自己診断「困っていることや悩みを相談できる先生がいる」80%（○）担任をはじめ、教員が生徒に寄り添う姿勢ができてきている。</p>
<p>5 働き方改革の推進</p>	<p>(1) ア「大阪府部活動の在り方に関する方針」に則った部活動指導を行い、また全校一斉定時退庁日の徹底等により時間外勤務を縮減する。 イ 全般的に校務や業務分担を見直し、民間や外部人材の活用等アウトソーシングの観点も取り入れ、業務の軽減・効率化を図る。</p>	<p>(1) ア 「大阪府部活動の在り方に関する方針」の徹底を図り、全校一斉定時退庁日の呼び掛けを強化し定時退勤を促す。また、月毎の時間外勤務の総時間を職員にフィードバックして働き方見直しへの契機を作り、時間外在校時間が上限（45時間/月）を超えないようにする。 イ・校務の見直しを行い、ルーティン化している業務の廃止もしくは効率化を進め、軽減を図る。 ・教育活動において民間の教育産業と連携する等、アウトソーシング化を図る。</p>	<p>(1) ア ノークラブデーや全校一斉定時退庁日が徹底されているか。特に全校一斉退庁日を徹底し、一人当たりの1ヶ月平均時間外勤務（令和4年度52時間33分）を削減する。 イ・校務の見直しを図り、二つ以上の業務の廃止をめざす。 ・進学講習等において、アウトソーシングが図れたか。 ・ア、イとも、（教員対象）学校教育自己診断結果における富田林高校での勤務満足度85%以上を維持向上させる。[85%]</p>	<p>(1) ア・12月までの一人当たりの1ヶ月平均時間外勤務（48時間10分）（◎）一斉定時退庁日の取組みには一定効果が見られる。しかし、中高一貫校ならではの会議、業務が多い。一貫校開校から6年が経つが、業務が定着しルーティン化するにはもう少しかかる。 イ・廃止した業務 自習室当番を考査前のみとし、地域の自習室を利用するよう促した。 PTA 役員選出の担任連絡を廃止した。 会議のペーパーレス化を実現した。（○） ・ハイレベル講習を外部委託し実施した。参加者は延べ333名（○） ・教員向け学校教育自己診断結果における富田林高校での勤務満足度への肯定率79%（△）教員に求められる業務が年々増加し、多忙化していることが原因と考えられる。</p>